参 考　主な支援策や制度等の紹介

アサヒビール芸術文化財団

□ 対象者
芸術文化活動団体
□ 支援内容等
1件当たり:100万円を基準。他団体との重複は構わない
情報提供及び普及費・選定提案に係る情報提供及び普及に要する費用等（補助率2／3）
□ 主管団体
財団法人　アサヒビール芸術文化財団
□ 制度活用のイメージ
芸術活動助成（主として美術、音楽、舞台芸術）、芸術文化団体助成（通年の活動支援、独創的・先駆的活動）
国際交流事業助成

芸術文化振興基金

□ 対象者
芸術文化活動団体
□ 支援内容等
芸術家及び、芸術に関する団体が行う、芸術の創造又は、普及を図るための活動、その他の文化の振興又は、普及を図るための活動に対する援助（20万円以上、活動費の1／2以内）
□ 主管団体
独立行政法人　芸術文化振興基金
□ 制度活用のイメージ
歴史的集落・町並み・文化的景観保存活用活動
文化を活用したまちづくり

まちづくり人応援助成金

□ 対象者
まちづくり活動団体全般
□ 支援内容等
地域の歴史や文化、芸術活動の推進福祉活動等への助成（50万円／件を上限）
□ 主管団体
財団法人まちづくり市民財団
□ 制度活用のイメージ
地域の振興、地域活性化を目的とし、住民主導で行う活動など

地域の文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業

□ 対象者
地域の文化遺産の所有者若しくは保護団体（保存会等）等によって構成される実行委員会等
□ 支援内容等
地域の文化遺産に関する情報発信、人材育成、普及啓発、継承、記録作成、調査研究等について補助金を交付
□ 主管団体
文化庁文化財部伝統文化課助成係
□ 制度活用のイメージ
情報発信、人材育成、普及啓発、継承、記録作成、調査研究など

※ 上記は、民間団体等に対して直接支援される支援策や制度等の例です。この他、地方公共団体を通じて民間団体等に間接交付される「社会資本整備総合交付金 都市再生整備計画事業（旧まちづくり交付金）」（国土交通省主管）があります。

文化を活用したまちづくり
手引き

″悩み″ の解決や ″ニーズ″ に応える ″ヒント集″

文化を活用したまちづくり 手引き
発行　国土交通省都市局　平成２４年３月

はじめに

手引きの目的

文化は、地域のアイデンティティを代表し地域の誇りの源泉となります。また、文化は情報発信力が高く、地域の内外をつなぐ役割を担い、さらに、まちづくりのあらゆる領域に関連性を持つことができます。

この手引きは、文化を効果的に活用したまちづくりの実践や継続・発展を支援することを目的に、主に、まちづくりに取組む方々の〝悩み〟の解決や〝ニーズ〟に応える〝ヒント集〟として編集しました。

手引きの構成

この手引きは、実際にまちづくりを具現化する工程をイメージし、下記「1．」～「4．」のように構成しています。

各セクションには、まちづくりの検討に役立つキーワードを明示し、必要に応じて、全国の先進的な取組みから各々のテーマに合致するポイントを抽出し〝ヒント〟として示しています。

また、最後に、まちづくり仲間や関係者等が集まって、具体的な話合いや検討をしやすいように、『書込み形式のワークシート（下記「1．」～「4．」の内容に対応しています）』を設けました。

1．まちを知る、認識する
まちづくりの舞台（まちの種類・現況・課題）、素材、熟度について

▶ **2．まちづくりの全体像を構築する**
どのように文化を活用するのか、まちづくりの目標（将来像）や展開イメージについて

▶ **3．まちづくりの組織（体制）、運営内容を具体化する**
担い手の悩みと先進事例の工夫について

▶ **4．まちづくりの手法、テクニックを活用する**
担い手の悩みと先進事例の工夫について

5．文化を活用したまちづくりを検討するためのワークシート

手引きの使い方

（1）基本事項

「5．文化を活用したまちづくりを検討するためのワークシート」を活用して、各セクションのStep1から順に情報等を収集し、書込みながら整理してください。この際、まちづくり仲間や関係者等と情報を出し合って意見交換することにより、検討が充実すると考えられます。また、公的機関等と意見交換することも有効です。

（2）〝悩みやニーズ〟に対応する〝ヒント（先進事例における工夫等）〟をみつける

まちづくりを継続的に展開するためには、一般に、4つの条件（ひと、資金、もの・場所、アイデア）が整う必要があります。

この手引きの後段（「3．まちづくりの組織（体制）、運営内容を具体化する」と「4．まちづくりの手法、テクニックを活用する」）では、この4つの側面から〝悩み〟や〝ニーズ〟を整理し、そのうえで各々に対応する〝ヒント（先進事例における工夫等）〟を参考にして、活動や取組み内容を具体化してください。

ひ　と	資　金	もの・場所	アイデア
地域（地元）の人や外部の人に関する〝悩みやニーズ〟	活動や運営を支える資金に関する〝悩みやニーズ〟	場所（施設）、アート作品等に関する〝悩みやニーズ〟	ノウハウ、プログラム、戦略等に関する〝悩みやニーズ〟

〝悩み〟の解決や〝ニーズ〟に応える〝ヒント〟を得る

先進事例における工夫等を例示しています（上記４条件に該当する箇所を着色）

1．まちを知る、再認識する

まちづくりの性格は、地域ごとに異なります。まちの現況や課題はもちろん、まちづくりに活かすことができる素材を一つずつ明らかにすることが、まちづくりの意義を深め、持続性を高めることにつながります。

Step 1．まちづくりの〝舞台〟を知る

まちづくりの第一歩は、その舞台が、どのような場所（地域・エリア）なのか、また、これらがどう組み合わさっているのかを知ることです。

まちの種類
- 住宅地
- 商業・業務地
- 観光地

など

まちの現況
- どんなひとがどの程度住んでいる？
- どんなひとがどの程度訪れる？
- 主要産業は？
- 行政や企業の意向・動向は？

など

まちづくりの課題
- 商業・サービスの再生、賑わいの創出
- 少子高齢化対策、高齢者等の社会参加支援
- 観光・交流の促進、交流人口の拡大
- 地域産業の再生・創出、経済の地域内循環
- 良好な居住環境の形成、安全・安心の確保

など

Step 2．まちづくりの〝素材〟をイメージする

まちづくりの成否は、素材（文化など）の質やその有無に大きく左右されると言っても過言ではありません。

例えば、1）アート、芸術、学術、科学技術　2）歴史、伝統、景観、建築物・構造物　3）健康、スポーツ、教育など、何を活用するのか、あるいは、できるのかを、十分に見極めることが大切です。これらは、既にあるものだけでなく、まちづくりの展開のために新たな文化要素を創造する場合もあります。

Step 3．まちづくりの〝熟度〟を認識する

まちづくりの熟度（取組み等の段階）を認識することが、今後の展開を考えるための前提になります。

熟度は、例えば、1）初期段階　2）成長・定着段階　3）発展段階 に整理することができます。複数の取組みが並列して進行する場合などでは、これらの各段階が混在することもあります。

〝初期段階〟
これからはじめる・はじめたばかり

▶ **〝成長・定着段階〟**
取組みを軌道に乗せる・育てたい

▶ **〝発展段階〟**
現状を土台に、更に新しい展開をめざす

2. まちづくりの全体像を構築する

文化を活用したまちづくりを効果的に展開するためには、まず、地域資源等の状況を精査し、文化を「保全・育成するのか」「発掘が必要なのか」「創造できるのか」といったビジョンやアイデアを見極めることが大切です。
そのうえで、〝どのように始動していくのか〟そして、〝どのように継続していくのか〟についての大まかなイメージを関係者間で確認しつつ、まちづくりの全体像を構築することが、様々な取組みを実践するための前提になります。

Step 1. どのようにして文化を活用するのかを見極め、まちづくりの目標（将来像）を設定する

文化を活用したまちづくりは、概ね以下3つの類型に整理することができます。
まちの現況やまちづくりの課題などを踏まえたうえで、どの類型がふさわしいか、あるいは実現可能性が高いか等を見極めていく必要があります。

文化 保全 型

地域固有の歴史や伝統芸能、景観や自然環境などの地域資源をまちづくりの素材として活用しながら保全・育成する

兵庫県豊岡市（旧出石町）では、1964年に閉館した永楽館（明治建築の芝居小屋）を、20年をかけて大改修し、復活させてまちづくりのシンボルとして活用しています。施設運営や交流プログラムなどの多様な観光まちづくりを、趣旨に賛同する市民が出資する「市民ファンド」が支えています。

文化 発掘 型

埋れている地域資源やまちの文脈・物語、風土などを見つけ出し、これを育成しながらまちづくりを進める

大分県豊後高田市では、同市が最も栄えた昭和30年代をテーマとして検証。他地域との競争力、観光客の関心の高まりがあると踏んで「昭和のまちづくり」を展開しています。市民や商業者の参画のもと、建築再生・商店再生・商品再生・商人再生等の取組みをまちづくり会社が牽引しています。

文化 創造 型

アートの創り手を呼びながら、また、地域ニーズに応える生活文化の担い手を育成しながら、新しいまちづくりを展開する

茨城県取手市では、大規模団地のショッピングセンターで、空き店舗対策が重要課題となっていました。ショッピングセンターの1棟を改装して開設されたスタジオや共同アトリエ等（井野アーティストヴィレッジ）と連携して、NPO法人が中心となり、若いアーティストたちの創作発表活動の支援と、市民が広く芸術とふれあう機会を提供しています。

〝どの段階から〟
まちづくりの熟度（初期段階、成長・定着段階、発展段階）

〝どの素材を、どのように活用し〟

〝どこを目指すのか〟
まちづくりの目標（将来像）

Step 2. まちづくりの展開イメージを想定する

まちづくりの展開には、活動や取組みを実践するための〝体制〟が必要になります。
次のセクション「3. まちづくりの組織（体制）を具体化する」の例示のような細目を検討する前に、まず、誰がどのようにまちづくりに関わっていくのかについて、概ねの〝型〟をイメージすることが大切です。
一般的に、地域の人々のみでまちづくりが展開される場合と、地域外の人々が関与する場合があり、各関係者の参加の程度や仕方に着目すると、概ね以下4つの類型に整理することができます。複数の取組みが並列して進行する場合などでは、これらの各類型が混在することもあります。

ワークショップ 型

まちづくりに関心のある有志等が集まり、まち歩きや勉強会などを繰り返して、まちづくりの方向性や内容を共有化していきます。話し合いを通じ、取組みを少しずつ具体化することが特徴で、専門家や行政が支援する場合もあります。

大分県別府市では、有志が路地裏散歩のガイド役となって、毎月二回のまち歩きを行ない、新しい担い手を発掘しながら、地域資源の活用ノウハウを蓄積しました。

コーディネーター主導 型

地域再生等に関心の高い法人・個人・機関がノウハウや資金を供出し、多様な関係者からの協力を得つつ、まちづくりの普及を図ります。活動の中核になる体制（まちづくり会社やNPO法人等）をつくるケースもあります。

横浜市若葉町では、閉館となった名画座の運営を地元企業が引き継ぎ、存続させています。商店街やNPO法人と協働で様々なイベントを企画・実施するなど、下町文化を継承しています。

プラットフォーム形成 型

地域住民・商店会・専門家・行政など多様な関係者の主体的参画のもと、委員会や協議会などを立ち上げ、まちづくりの枠組みの検討や具体的な調査・事業の実施を行ないます。プラットフォームの持続により、継続性が担保されます。

熊本市では、商店街や市などで実行委員会を結成し、公平な役割分担のもとで、一過性のイベントではなく、常に新しい良質のパフォーマンスアートを提供しています。

事業者等先導 型

行政や民間事業者が、文化の創出や育成の方針を内外に示しつつ、多方面に協働を呼び掛けながら、施設整備や特定の事業を実施します。様々な担い手が適材適所で参画し、施設の維持管理やイベント等を行います。

青森県十和田市では、市が整備した美術館を中核施設としつつ、市民や商店街、学生等との協働によるアート作品の設置やイベント実施等を行ない、中心市街地に賑わいを創出しています。

※ 上記4つの類型における着色箇所は、Step1の『文化保全型』『文化発掘型』『文化創造型』の内容に対応しています。

3. まちづくりの組織（体制）、運営内容を具体化する

具体的な活動や取り組み等の実践に向け、どのような〝組織（体制）〟がふさわしいか、また、どのような〝メンバー（プレイヤー）〟が関わるのか、そして、どのような〝運営内容〟が求められるかを整理する必要があります。
このためには、〝悩み〟や〝ニーズ〟を体系的に整理して、これらを解決するための〝ヒント〟を先進事例から得ることが有効です。

Step 1. 〝悩み〟や〝ニーズ〟を整理する

自分たちが抱える〝悩み〟や まちの〝ニーズ〟を、『ひと（地域の人、外部の人）』『資金（運営費など）』『もの・場所（施設やアート作品など）』『アイデア（ノウハウ・プログラム、戦略など）』ごとに、例えば下記のように整理します。

ひ　と

- ○まちに愛着をもつ担い手を発掘したい
- ○様々な人の能力を活かせる体制にしたい
- ○アーティストや芸術家をまちづくりに巻き込みたい
- ○多様な担い手との協働を図りたい

資　金

- ○非営利や身の丈にあった運営にしたい
- ○安定的な資金のもとで運営したい
- ○持続的な活動を担保する収支の仕組みを構築したい

もの・場所

- ○まちづくりの核施設をつくり保有したい
- ○景観や歴史的建築物、空き家や空施設を活用したい
- ○人の交流の場や、芸術文化の表現・発表の場がほしい

アイデア

- ○地域資源を効果的に発掘する手法を知りたい
- ○内外の人々が交流する仕組みをつくりたい
- ○まちの地域資源を客観的に評価したい
- ○収益事業を展開したい

Step 2. 先進事例の工夫等から〝ヒント〟を得る

次に、〝悩み〟や〝ニーズ〟に対応する〝ヒント〟をみつけ、自分たちのまちの条件に照らしてアレンジしながら、様々な可能性を比較検討します。

※ 先進事例にみる工夫等における着色箇所は、Step1の『ひと』『資金』『もの・場所』『アイデア』の内容に対応しています。

○大分県別府市では、新たな担い手を発掘することを目指した。地域の有志等約200名が登録するメーリングリストを活用してまち歩きの参加の輪を広げた。

○大阪市空堀の長屋再生プロジェクトでは、個人や企業の専門性を活かす組織づくりを目指した。企業組合を組織化し、長屋物件のサブリースや改修事業等を実施。不動産・建築等の専門家である組合メンバーが、各々の能力を活かして収益業務を展開している。

○茨城県取手市では、担い手（アーティスト等）の地域交流が求められた。コミュニティの中心に、空き店舗等を活用した拠点（活動の場）を設け、アート活動や講座に活用。不特定多数の人に開放した。

○熊本市では、「まちを元気にしたい」と強く願う多数の商店街有志がいた。3つの商店街を主体としつつ、市や商工会議所の協働による公共性の高いイベントを実施する体制として、実行委員会形式を採用した。

○熊本市河原町では、限定的な予算を前提とした身の丈にあった運営を目指した。アーティストや愛好家の限られた力のみによる活動を実践。これが功を奏し、参加者のスキル向上とアートイベントの魅力向上につながり、これが好評を呼ぶ好循環を導いた。

○大阪市のNPO法人＋アーツは、初期段階から、補助金頼りの活動では持続性が望めないと考えた。徹底した収益を目標に、汎用性のあるプログラムを中心とした事業型運営で安定した活動を継続している。

○大分県豊後高田市、別府市では、ボランティア人材は豊富だったものの、まちのガイドの仕組み（まちの案内人制度等）を持続する財源が十分でなかった。実費のみを徴収する形態で運用し、持続性を担保した。

○大阪市空堀の長屋再生プロジェクトでは、営利だけを追求しない組織づくりを目指した。この目的に適うものとして、企業組合を立ち上げた。

○大分県豊後高田市では、広域観光と施設の運営を担う組織づくりを目指した。これが可能なものとして、まちづくり会社（第3セクター）を立ち上げた。

○横浜市黄金町、墨田区向島、大分県別府市、茨城県取手市では、空家・空き店舗の増加が課題であった。空家を若手アーティストや芸術家に提供（移住、一時利用）する仕組みを構築したり、あるいは口コミなどを通じて新たな担い手を呼び込んだ。

○熊本市河原町、群馬県桐生市、北海道美唄市、大分県別府市では、文化遺産・歴史的建築物活用の機運やアートを活かしたまちづくりの要請があった。専門家等の適切な支援のもと、これらを実現している。

○長野県小布施町では、町内の美術館・音楽堂（町営及び民営）、町内ホール等をまちづくりに活用することが可能であった。これらを会場とする町ぐるみの国際音楽祭等を実施し、収益を適切に配分している。

○大分県別府市では、まちづくり初期段階に、地域の魅力を再発見する手法を模索していた。まち歩きを、定期的に約2年間実践。ここで発見した地域資源について「どのように活用すれば面白いか」を、まち歩きの現場で意見交換した。また、メーリングリスト（約200名）を活用してアイデアを出し合った。人をつなぎ、呼び込むことができるノウハウが参加者に共有された。

○大分県別府市、大阪市空堀では、空家や空き店舗等の物件の価値を、地元の人々の視点だけでは見出せなかった。NPO法人や学生等が、客観的視点や外部の目線で魅力を再発見。物件の借り上げ・賃貸やリノベーション等により再生が進んでいる。

○長野県小布施町では、民間主導のまちづくりを目指し、収益事業の展開を前提とした。これに該当するものとして、民間の出資比率が96%のまちづくり会社（第3セクター）を立ち上げた。

Step 3. 組織（体制）の形態・メンバー（プレイヤー）・運営内容をアウトプットし、調整等を進める

まちづくりの初動段階では〝まず始めてみること〟が重要です。そして、将来的に顕在化するかもしれない課題を想定し、〝いかに継続していくか〟の道筋をイメージしておくことがポイントと言えます。

①組織（体制）の形態

まちづくりを効果的に継続するためには、目指すべき方向性や事業内容等のポイントを整理し、これを担いうる組織（体制）の形態を整えることが必要です。

- 会社（株式会社、合同会社など）
- 組合（企業組合など）
- NPO法人
- その他（実行委員会など）

②メンバー（プレイヤー）

まちづくりの成果を的確に得るためには、様々な担い手や専門家が連携する仕組みや、体制の新陳代謝方策（人材育成など）を用意しておくことが有効です。

- 専属スタッフ（企画・調整、組織運営など）
- ボランティア（活動実践、参加・参画など）
- 創り手・表現者（アート・芸術・学術など）
- 支援者（アドバイザー、物資・専門性の提供など）

③運営内容

まちづくりを継続的に実践するためには、収益が安定的に得られる仕組み（収益事業と非収益事業のバランス）や、情報・人材の交流が求められます。

- 収益事業（施設運営、講座・プログラム、有料イベント、ガイドなど）
- 非収益事業（勉強会、地域清掃、無料イベント、など）
- その他（情報発信・PR、事務など）

4. まちづくりの手法、テクニックを活用する

まちづくりを推進する組織（体制）や運営内容が具体化したのち、実際に活動をはじめてみると、新たな問題点やハードルが顕在化することがあります。
こうした場合にも、やはり〝悩み〟や〝ニーズ〟を体系的に整理して、これらを解決するための〝ヒント〟を先進事例から得ることが有効です。

Step 1. 〝悩み〟や〝ニーズ〟を整理する

自分たちが抱える〝悩み〟や〝ニーズ〟を、『ひと（地域の人、外部の人）』『資金（運営費など）』『もの・場所（施設やアート作品など）』『アイデア（ノウハウ・プログラム、戦略など）』ごとに、例えば下記のように整理します。

ひ　と

- ○まちづくりの担い手となる人材育成が必要である
- ○体制の新陳代謝、若返りを図りたい
- ○まちづくりへの参加頻度や集客性を向上したい

資　金

- ○関係者が公平に費用負担する仕組みが必要である
- ○事業展開や活動の活性化に資する補助金や助成金を得たい
- ○組織運営費、事業費等を極力抑えたい

もの・場所

- ○課題を有する施設等を利活用するノウハウを知りたい
- ○埋れた地域資源を掘り起こしたい
- ○地域資源やアート作品等を効果的に活用する方法を確立したい

アイデア

- ○地域づくりのプラットフォームとして、住民や活動団体、企業等をつなぐ仕組みをつくりたい
- ○県外等に対する広域的な情報発信を行いたい
- ○コミュニティビジネスを育成したい
- ○まちの魅力を再発見したい

Step 2. 先進事例の工夫等から〝ヒント〟を得る

次に、〝悩み〟や〝ニーズ〟に対応する〝ヒント〟をみつけ、様々な可能性を比較検討します。

※ 先進事例にみる工夫等における着色箇所は、Step1の『ひと』『資金』『もの・場所』『アイデア』の内容に対応しています。

○茨城県取手市では、アートを活用したまちづくりを、実行委員会形式で約11年間継続していた。この委員会は、多数の人や団体で構成されていた為、**NPO法人化に向けた関係者の合意形成が課題**となった。このため、事務局のみがNPOとして法人化した。

○茨城県取手市では、**まちづくりの継続過程で人材の固定化が進み**、若者が極端に少ない閉鎖性が課題となった。このため、オープン参加形式等の人材育成プログラムを実施し、新たな担い手を育成した。

○兵庫県豊岡市（旧出石町）、高知県黒潮町、愛知県西尾市佐久島では　**担い手の若返り**を目指した。ボランティアやイベント参加者の中から、次代の担い手を発掘している。

○青森県十和田市は、**地域の人々が広く参加するまちづくり**を目指した初期段階から、まちづくりの検討内容を随時情報発信しつつ、地域ニーズを収集しながら、事業の具体化を図った。

○兵庫県豊岡市では、**市民が広く出資し、施設運営やイベント実施等を支える仕組みを模索**した。市民ファンドがまちづくりを支える形態をとって、事業で得られた収益を出資者に還元（配当）している。

○茨城県取手市では、実行委員会形式で活動を継続していたが**年度に縛られる資金運営が課題**であった。これを解決するために、運営主体をNPO法人化した。

○高知県黒潮町では、アイデンティの向上による**集客と収益の確保**を目指した。これに寄与するものとして、組織名等のネーミングを工夫することによって、興味の喚起や魅力の発信に努めた。

○東京都墨田区向島では、**有志やボランティア等による手弁当のまちづくり活動が継続**(約20年間)されてきた。このような活動実績や経緯が評価され、東京都、東京文化発信プロジェクト室(東京都歴史文化財団)、NPO法人向島学会の共催によるモデル事業として、2009年から墨東まち見世というプロジェクトを行っている。

○大阪市空堀の長屋再生プロジェクトでは、**未接道による再建築不可等の課題**を逆手にとった。長屋独自の景観等の価値を見直し、複合ショップ（店舗の誘致）等として再生。また、長屋や石畳の路地などにおけるイベント（まちアート）にも活用した。

○大分県豊後高田市、群馬県桐生市では、地域の人々の間で、**遊休化した大規模施設（紡績工場跡や米蔵等）を保存・利活用**する機運が高まった。公的機関等が所有者から提供（譲渡や賃借）を受け、改装後、まちづくりの核施設等として再生した。

○青森県十和田市は、**宿場町や城下町といった直ちに活用できる文化資源が見当たらなかった**。この状況をむしろメリットと捉え、現代アートを素材として、地域一体となって新しいことに取り組む機会とした。

○愛知県西尾市佐久島、北海道美唄市においては、**アートと自然が調和した魅力づくり**を考えていた。自然とアートの調和を図った空間や感動を情報発信することにより、交流人口の拡大を導いた。

○大分県別府市では、芸術フェスティバルの実施に際し、**「情報は戦略的に発信すべき」**との課題認識をもっていた。ツイッター・フェイスブック・ブログ等の情報伝播や口コミの効用に着目し、ターゲットを絞って広報した。

○熊本市では、**事業の継続性を重視**した。運営費は商店街や商工会議所、市が負担し、中心市街地の賑わいづくりを官民一体で推進している。

○大分県別府市では、**地域のマイクロビジネス育成**が課題であった。大規模イベントを、ビジネス試行の機会と位置付け、参加者に場を提供。文化や美容、エコツアーなど自分の得意分野を活かしたプログラムを事業化する人材が育成された。

○東京都墨田区向島では、**様々な主体によるイベントや活動が数多く存在**している。NPO法人向島学会がこれらを内外に紹介するプラットフォームとして機能しており、各々の活動の活性化に寄与している。

Step 3. 支援策や制度等・まちづくりのノウハウを上手く取り入れつつ、情報戦略を構築する

まちづくりの推進・継続のポイントは、〝ヒント〟を参考にしながら、支援策や制度・ノウハウなどに関する情報を収集し、活用できそうなものにアプローチすることです。また、活動の規模や範囲に応じた情報戦略の構築は必須です。

①支援策や制度等の活用

支援策や制度などを、まちづくりの目的等に応じて上手く活用することで、活動（取組み）の幅を広げることができ、また、質を向上を図ることができます。

- **応募型**（公的機関（資金・場所・物資等）、民間ベース）
- **協力依頼型**（遊休施設の活用、寄付や出資、人材派遣など）

②まちづくりのノウハウ活用

イベントやプログラム、施設運営の方法など、まちづくりの推進にかかるノウハウを参考にしながら、取り入れていくことが有効です。

- イベント
- プログラム
- 施設運営
- 地域資源活用

③情報戦略の構築

効果的なPR戦略をもちつつ、情報やヒトを定期的に交流させることで、まちづくりの活動を活性化し、また、常に新鮮な状態を保つことが肝要です。

- **情報の受発信**（PRやパブリシティ、ニーズ把握など）
- **人材交流**（講習会、発表会など）

5. 文化を活用したまちづくりを検討するためのワークシート

まちづくりの内容は、地域や場所によって全く違ったものになります。したがって、まちづくりを検討する「手順」に決まった形があるわけではありません。以下のワークシートは、まちづくりの担い手等の皆様が、地域の実情に応じてアレンジしながら活用されることを想定して作成したものです（太枠□の項目が、検討の結論になることをイメージしています）。

まちづくり仲間や関係者等が何名か集まって、本手引きの②頁から⑧頁を参考にしながら、必要な情報や意見などを出し合って記入する等によって、まちづくりの具体的な検討にご活用ください。

1. まちを知る、再認識する

Step1. "舞台"を知る

まちの種類

まちの現況

まちづくりの課題

Step2. "素材"をイメージする

Step3. "熟度"を知る

初期段階
成長・定着段階
発展段階

2. まちづくりの全体像を構築する

Step1. どのように文化を活用するのかを見極め、まちづくりの目標（将来像）を設定する

どの"類型"か

文化保全型　文化発掘型　文化創造型

参考となる事例

どの"素材"をどのように活用するのか（文化活用のストーリー）

どこを目指すのか（まちづくりの目標（将来像））

Step2. まちづくりの展開イメージを想定する

どの"類型"か

ワークショップ型　コーディネーター型
プラットフォーム形成型　事業者等先導型

参考となる事例

誰がどのようにまちづくりに関わっていくのか（まちづくりの展開のストーリー）

3. まちづくりの組織（体制）や運営内容を具体化する

Step1. "悩み"や"ニーズ"を整理する

ひと　資金　もの・場所　アイデア

Step2. 先進事例の工夫等から"ヒント"を得る

①組織（体制）の形態　②メンバー（プレイヤー）　③運営内容

事例の工夫等　事例の工夫等　事例の工夫等

どのように応用すればよいか　どのように応用すればよいか

Step3. 組織（体制）の形態・メンバー（プレイヤー）・運営内容をアウトプットし、調整等を進める

4. まちづくりの手法、テクニックを活用する

Step1. "悩み"や"ニーズ"を整理する

ひと　資金　もの・場所　アイデア

Step2. 先進事例の工夫等から"ヒント"を得る

①支援策や制度等の活用　②まちづくりのノウハウや工夫　③情報戦略

事例の工夫等　事例の工夫等　事例の工夫等

どのように応用すればよいか　どのように応用すればよいか

Step3. 支援策や制度等・まちづくりのノウハウを上手く取り入れつつ、情報戦略を構築する